

平成23年度決算

環境保全コスト 環境保全対策のための 投資額及び費用額を表しています。

環境保全コスト及び環境保全効果		23年度(千円)		参考:22年度(千円)		環境保全効果 環境保全対策に取り組んだ結果、環境負荷をどれだけ削減できたかをなるべく定量的に算出しています。
		費用額	投資額	費用額	投資額	
事業エリア内コスト		1,117,066	—	1,349,404	—	
公害防止コスト	1 煤煙煤塵及び排ガスの測定	474	—	590	—	法令遵守(大気保全防止法)
	2 低排出ガス車の購入	713	—	8,338	—	低排出ガス車(低公害車)の導入率の向上(H22年度実績60.2→H23年度実績61.9%、前年度比1.7%向上)
地球環境保全コスト	3 水運用の効率化	—	—	—	—	CO <sub>2</sub> 排出削減量(従来の配水系統と比較し、電気使用量が削減したことによる効果) 166.3t-CO <sub>2</sub> /年
	4 省エネルギー対策推進工事(浄・給水場の照明器具、省エネ機器の導入)	9,900	—	10,577	—	CO <sub>2</sub> 排出削減量(従来の機器と比較し、電気使用量が削減したことによる効果) 169.5t-CO <sub>2</sub> /年
	5 ちば野菊の里浄水場太陽光発電設備	3,993	—	3,993	—	CO <sub>2</sub> 排出削減量(設備導入により、電気購入量が削減したことによる効果) 25.4t-CO <sub>2</sub> /年
資源循環コスト	6 配水管の浅層埋設	—	—	—	—	建設発生土の削減量 1,462m <sup>3</sup> CO <sub>2</sub> 排出削減量 26.4t-CO <sub>2</sub> /年
	7 建設発生土のリサイクル	355,692	—	357,236	—	建設発生土の再資源化量 83,721m <sup>3</sup> CO <sub>2</sub> 排出削減量 473.5t-CO <sub>2</sub> /年
	8 鉛給水管引き抜き工法の採用	—	—	—	—	平成22年度で計画的な鉛給水管更新事業は終了しましたが、残存する鉛給水管について引き続き更新工事を実施しています。
	9 浄水場発生土の乾燥(福増浄水場を除く/ちば野菊の里浄水場・北総浄水場はPFIのため除外)	246,108	—	560,090	—	浄水場発生土減量のための中間処理
	10 浄水場発生土の天日乾燥(福増浄水場)	66,314	—	63,973	—	CO <sub>2</sub> 排出削減量(電気使用量の削減による効果) 418.2t-CO <sub>2</sub> /年
	11 浄水場発生土の有効利用	389,274	—	295,742	—	浄水場発生土の有効利用量 13,461 t 浄水場発生土の有効利用率 64.6%
	12 船橋合同庁舎・水質センターの雨水利用	269	—	269	—	水資源の有効利用(雨水を洗車や緑地散水に利用)
	13 水質試験及び原水水質自動監視装置廃液処理	2,154	—	2,102	—	法令遵守(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)
	14 漏水防止	39,848	—	44,402	—	漏水防止量 1,279,836m <sup>3</sup> CO <sub>2</sub> 排出削減量 225.0 t-CO <sub>2</sub> /年
	15 浄・給水場及び水質センターの一般・産業廃棄物処理	2,326	—	2,092	—	法令遵守(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)
上・下流コスト		421	—	451	—	
	16 グリーン購入(再生コピー用紙の購入等)	—	—	—	—	再生コピー用紙の購入率100%維持(「千葉県環境マネジメントシステム」に基づくグリーン購入の促進)
	17 エコマーク被服の購入	421	—	451	—	エコマーク被服の購入率 65.4%
管理活動コスト		32,307	—	35,572	—	
	18 環境情報の開示	5,281	—	5,746	—	環境コミュニケーションの推進
	19 環境保全に関する広報活動	26,071	—	28,831	—	〃
	20 冊子「水のはなし」負担金	13	—	29	—	〃
	21 太陽光発電パンフレット作成	—	—	—	—	〃
	22 印旛沼水質保全協議会負担金	222	—	246	—	水源の環境や水質の保全
	23 印旛沼水質保全協力費	320	—	320	—	〃
	24 江戸川を守る会負担金	400	—	400	—	〃
研究開発コスト・社会活動コスト・環境損傷対応コスト		—	—	—	—	
環境保全コスト総計		1,149,794	—	1,385,427	—	CO <sub>2</sub> 排出削減量 1,491.0t-CO <sub>2</sub> /年 建設発生土削減量 85,183m <sup>3</sup>

環境保全対策に伴う経済効果 環境保全対策を講じたことにより、講じなかった場合と比べて節減できた(発生しなかった)と認められる費用額を表しています。

対応する環境保全コストの項目		23年度(千円)	参考:22年度(千円)	経済効果の概要
地球環境保全効果	3 水運用の効率化	5,562	7,559	従来の配水系統で配水する場合と比較し、削減できる電力料金を計上しています。
	4 省エネルギー対策推進工事(浄・給水場の照明器具、省エネ機器の導入)	5,855	19,906	従来の機器と比較し、削減できる電力料金を計上しています。
	5 ちば野菊の里浄水場太陽光発電設備	879	867	設備導入に伴い、削減できる電力料金を計上しています。
資源循環効果	6 配水管の浅層埋設	13,986	26,747	従来の深度で埋設する場合と比較し、削減できる費用を計上しています。
	7 建設発生土のリサイクル	473,288	418,395	発生土を再利用せず、埋立処分した場合にかかる費用を計上しています。
	8 鉛給水管引き抜き工法の採用	—	704	開削工法を使用した場合と比べて削減できる費用を計上しています。
	9 浄水場発生土の天日乾燥(福増浄水場)	56,700	115,573	発生土を電気等を使用して乾燥処理する場合の費用を計上しています。(他の2浄水場での乾燥にかかる平均単価より算出)
	10 浄水場発生土の有効利用	227,048	258,210	浄水場発生土を埋め立て処分した場合にかかる費用を計上しています。
	13 漏水防止	253,894	202,789	漏水防止した分量の水をつくるのに必要な費用を計上しています。
環境保全対策に伴う経済効果の合計		1,037,212	1,050,750	